

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/09/02～2022/10/30)

1. 勉学の状況

スペインのサラマンカ大学に入学して、約2か月が経ちました。この2か月はとても刺激的で、勉学面でも、生活面でも本当にあっという間でした。まず、勉学面に関してですが、私がサラマンカ大学で前期履修している科目は、*Gramática para la Enseñanza 1, Italiano, Seminario de traducción Japones-Español* の3つです。私が興味を持っている専門的な分野の講義は後期に多く開かれること、専門的な講義をスペイン語で受けるにはまだ語学力が足りないと感じたことから、前期は文法や翻訳など、言語的な講義を取ることにしました。

Gramática para la Enseñanza 1 は、名前の通り、外国人学習者のためのスペイン語文法教授法を学ぶ講義であり、先輩がお勧めしてくださったことと、留学生で履修している人が多いこともあり、履修を決めました。この授業は、先生の話すスピードが早く、リスニングだけではあまり講義内容を理解できないので、今はパワーポイントの内容と先生の話すことを照らし合わせながら、授業を受けていますが、授業内容はとても興味深いです。スペイン人の視点から、文法時制をどのように分類しているのか（過去未来をどのような位置づけにしているのかなど）、それをどのように教えるべきかなどを学べるので、日本で学んだスペイン語文法の理解力がかなり深まっていると思います。実際、私は、この授業のおかげで、過去形と完了形の違い、過去形と現在完了形の違いの理解力が深まり、会話においても使い分けられるようになってきました。また、当たり前ですが、講義のすべてがスペイン語なので、文法用語などももちろんスペイン語であり、それも文法の理解力をより深められている理由の一つだと感じます。*Seminario de traducción Japones-Español* は、日本語をスペイン語でどのように訳すのかという翻訳の授業です。この授業は、日本語をスペイン語に訳すという授業なので、授業も聞き取りやすく、また、少人数なのでグループで話し合う機会が多く、日本のことをスペイン語で説明することが求められるので、会話力も鍛えられています。生徒もみんな日本語に興味を持ってきているので、改めて日本の魅力に気づくことが出来、日本のことをもっと勉強しようと思うきっかけとなりました。また、私は日本でスペイン語の文学作品を日本語で訳すという講義を受けていたので、日本のニュースなどをスペイン語で訳す際には、また別の難しさがあることが分かり、とても興味深く、さらに日本語の難しさも改めて感じました。日本語には、日本語でしか表せない絶妙なワードチョイスやニュアンスがあり、日本語の奥深さを改めて誇りに思いました。*Italiano* の講義を取った理由は、語学学習の楽しさに改めて気づいたからです。サラマンカに来て一番感じることは、人種の多様性で、スペイン人だけではなく、世界中の人と友達になることが出来ます。サラマンカに来てから、スペイン語だけでなく、たくさんの言語に触れて、他の言語も学びたいと思い、私はイタリア人の友達が多かったので、イタリア語の履修を決めました。イタリア語はスペイン語ととても似ているので、授業もとても聞き取りやすく、なにより新たな言語を比較して学ぶのはとても楽しいです。スペインの文法と比較して、スペイン語でイタリア語を学ぶので、もちろんスペイン語の勉強にもなります。語学を学ぶ楽しさを改めて感じる事が出来ていることは、留学をしてよかったと思う理由の一つです。

大学の授業とは別で、先輩からお勧めしていただいた公立の語学学校にも通っています。語学学校は、基本的な会話に必要なフレーズなどをテーマに沿って学びます。もちろん様々な国籍の人がスペイン語を学びに来ており、生徒たちの話を聞くのもとても面白いです。また、ウクライナ人が多くて、国際情勢を改めて意識するきっかけになりました。語学学校で学んだフレーズや単語を日常生活で生かせることが多く、半年間通えるので、成長を感じられるように、頑張りたいです。両立は思っていたよりも難しいですが、とても充実した生活を送れています。

2. 生活の状況

生活面でもこの2か月間は、本当に毎日が刺激的でした。スペインで生活して感じた一番の

違いは活動時間の違いです。スペインでは、14時から17時にお昼を食べて、22時に夕飯を食べ、そのあと、夜から友達と遊びます。初めは、時差ボケが抜けなかったり、日本人の食事の時間との違いに慣れなかったりして苦労しましたが、その生活もだんだん慣れてきました。夜ご飯の時間や、そのあとから遊ぶ生活は正直いまだに理解できませんが、すごく良い経験になっています。現地での住居については、私は、シェアハウスを選びました。ブラジル人、スペイン人、イタリア人の女の子と一緒に住んでいます。シェアハウスも初めての経験でとても不安でしたが、みんなと掃除やごみ捨てを分担したりして、問題なく過ごせています。たまに一緒にご飯を食べたり、映画を見たりして、家でもスペイン語を話せてとても楽しいです。

対人関係も充実しています。私がサラマンカに来て心がけていることは、積極的に新しい環境に出向くことです。新しいところに出向くと、自然と新たな出会いがあり、2か月間でさまざまなコミュニティの人と知り合うことが出来ました。一番参加してよかったと思うのは、サラマンカ大学で3日間行われた日本学会のお手伝いです。日本学会では、大使の方や、日本について研究している講師の方々、サラマンカ大学で日本語を専攻している修士博士課程の人など、大学の講義を受けているだけでは出会えない人々との出会いを経験することが出来ました。機会があったら、何事にも挑戦してみると、日々想定していない良い出会いがあるなど実感しました。日本では、あまり新しい環境に挑戦してこなかったのも、行動することの大切さを知りました。残りの留学期間も、同じような生活に慣れるのではなく、新鮮な生活、新たな出会いを大切に過ごしていきたいと思っています。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/11/01～2023/02/28)

1. 勉学の状況

サラマンカ大学に入学して約 6 か月が経ち、残り 4 か月となりました。勉学面では、1 学期の授業が 12 月中にすべて終わり、1 月には無事すべてのテストと三年次論文を終わらせることが出来ました。

まず、3 つの授業の内容に関して、留学開始月報告書に書いた通り、私は日本語からスペイン語への翻訳の授業、第二言語としてスペイン語を教えるための文法教授法の授業（以下、ELE と称す）、そしてイタリア語の授業の 3 つを履修していました。

どの授業もスペイン語で授業を聞くという面においてだけでなく、内容的にもとても興味深く、履修してよかったです。

翻訳の授業では、日本語が母国語ではない人にも分かりやすい翻訳は何かを考えながら、日本語の繊細な表現をスペイン語で訳すことの難しさを学べた点、イタリア語の授業では、スペイン語でイタリア語を学べたことはもちろん、スペイン語とイタリア語の似ているところを発見できた点や、スペイン語の文法用語を覚えることが出来た点が良かったです。イタリア語の授業には留学生がほとんどいなかったので少し不思議な空間でしたが、改めて言語を学ぶ楽しさに気づくことが出来ました。

3 つの授業の中でも特に、ELE の授業は本当に履修してよかったなと感じているので、詳しく掘り下げていきます。この授業では、スペイン語の論文を読み、それに関する問いに答えるレポートが二度、スペイン語の文法事項に関する質問に自分の言葉で回答する形のレポートが三度、グループワークでの課題に基づいたレポートが一度ありました。具体的に論文は「スペイン語を第 2 言語として教える際に文法要素はどれほど重要なのか?」「ser は永続的、estar は一時的と単に定義することが出来るのか?」というようなものであり、どれもとても大変でしたが、自分がスペイン語を勉強する際に持っていなかった教える視点から学べたので、スペイン語への理解力が格段に上がったと思います。また、グループワークでは、二人一組でレポートの構成を考えて、分担して書く作業があったので、コミュニケーション面でもとても大変でしたが良い経験になりました。

次に、最終評定に関して、翻訳の授業では、2 つのスペイン語への翻訳レポート、ELE、イタリア語の授業ではそれぞれテストがありました。最終レポートでは出来るだけ違和感なく、かつ分かりやすい翻訳になるよう心掛けました。日本語特有の表現を訳す際には苦労しましたが、スペイン語のレポートを書く作業はとてもためになりました。テストに関しては、どちらも緊張感のあるテストでした。イタリア語のテストはリスニング、ライティング、リーディングがあり、A1、A2 レベルの問題でした。ELE のテストは内容的には授業で習った内容に関する質問がほとんどでしたが、スペイン語で問題の意図を理解し、自分の言葉をスペイン語で説明するという行為が本当に難しく、テスト時間の 2 時間をすべてかけても足りないとてもハードな時間でした。辞書は使えなかったですが、問題の意味が分からなかった時や、言葉の意味が分からないときは先生にスペイン語で質問することが出来ました。授業や課題の内容を復習して、自分なりの答えを考えていたおかげでなんとかすべてに回答することが出来ました。もう少し復習を重ねればよかったと思っています。

また、並行して通っていた語学学校も 1 月末にすべて終わり、2 月の頭には語学学校のテストも無事終わりました。私は大学の授業時間との関係で、A2 のレベルのクラスに入っていたので、文法の内容はすでに知っていることが多かったですが、リスニング力、スピーキング力は他の受講生に比べても低かったため、会話を練習するとても良い機会でした。また、テーマに基づいた語彙力や表現を学ぶことが出来たのも良かったです。テスト期間には、ペアの人と一緒に勉強をしたりして、テストも無事合格できたので語学学校に通ってよかったです。

一学期の授業、語学学校を通して、スペイン語が以前よりずっと耳に入ってくるようになり、聞き取れることが多くなりました。

後期は、語学学校は通わず、大学のより自分の興味のある授業を多く受けて、さらに頑張りたいと思います。

2. 生活の状況

11月ごろから少しずつ日が短くなり、12月には街がイルミネーションで一杯になりました。スペイン人の友達はサラマンカの冬はとても寒いと言っていたので、マフラーやコートを買って冬への対策をしましたが、体感的に1月までマフラーもいない日が多かったように思います。朝や夜は冷えますが、日中はポカポカしていて、日本のような湿っぽさがないので快適に過ごしていました。しかし、2月中旬あたりからぐっと寒くなり、スペインで初めての雪も経験しました。一方で、庭園や川のふもとに行くと、花が植えられていたり、桜のような花が開き始めていたりして、早くも春を感じています。スペインの季節の移り変わりを探検できることも、スペインに来て本当に良かったなと感じる理由の一つです。スペインに来たばかりのような暖かい季節がもう一度体験できるのがとても楽しみです。

スペイン人の一日の生活の流れにもだいぶ慣れて、今では10時以降が朝、14時がお昼、22時に夜ご飯という感覚が身についています。食生活に関して、円安や、外食が高いこともあり、パンやパスタを中心とした生活をしています。スーパーで安くなっているときに果物やお肉、野菜を意識的に買うようにしています。カフェに行く日や外食する日が重なると金銭的にかなりきつくなります。

体調面では、軽い風邪が長引くことが何度かあったので、薬をもう少し持っていけばよかったと思っています。特に、乾燥のせいかな、咳がかなり治りづらいです。残りの期間体調に気を付けて過ごしたいと思います。

対人関係も順調です。スペインに来て初めてのころは夜遅くになってから遊びに行くスペインの文化に慣れようとして少し気持ち的にも余裕がないところもありましたが、今はお昼にカフェめぐりやお散歩をして、夜はルームメイトとご飯を食べながらスペインのテレビのプログラム、ドラマを一緒に見たり、大学の友達の家遊びに行ってお飯を一緒に作ったり、クッキングをしたりするなど家で落ち着いて過ごす時間を大切にしています。個人的には、友達やルームメイトとジブリの映画を見る時間が一番好きです。外国の友達がジブリの作品を楽しそうに見てくれているのを見ると、すごくうれしいです。そのほかにも、中古品が売られている市場に行っておスペイン語の本を何冊か買ったり、サラマンカの中心から少し外れたところにハイキングをしたり、サラマンカから1時間の所にあるバジャドリッドに友達とプチ旅行したりと、充実した日々を送っています。新しい場所に行くのはとても楽しいです。

また、引き続き、定期的に日本語授業のお手伝いや、3月末の日本週間のお手伝いなど、課題活動も意欲的に続けています。今年の9月ごろに日本への留学を考えている友達がたくさんいるので今からとてもわくわくしています。

留学生活も残り少ないので、悔いのないよう充実した生活を送りたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/03/01～2023/06/27)

1. 勉学の状況

ついに、6月も後半に差し掛かり、10か月の留学期間も終了します。長いようであったという間だった留学生活が終了することに、まだ実感は湧いていませんが、後悔のない留学生活を送れたと感じています。まず、勉学面に関して、後期も無事すべての授業を終えることが出来ました。後期の授業では、前期に引き続き *Gramática para la Enseñanza del español (II)* (以下、ELEと称す) を履修し、その他に、*Las mujeres y la literatura*、*Literatura Contemporánea Japonesa* の計3科目を履修していました。また、聴講科目で文献学部の *Antropología japonesa*、*Literatura Española*、法学部の *Politics of the Global South*、*Gender Politics and Society* という授業にも参加していました。

では、履修していた3科目に関して具体的に掘り下げてお話ししたいと思います。まず、ELEは、前期の中間報告書でも述べたように、かなり課題が多く大変でしたが、スペイン語が今までよりも身についたと感じたので後期も履修することに決めました。後期は前期で学んだことの復習と、より接続法に焦点を当てた内容の授業でした。内容的にはやはりかなり難しかったのですが、前期と先生が異なり、課題は一つもなく、試験の出来が成績に100%反映される形だったので、前期よりも課題に苦しむことはありませんでした。また、試験はすべてセンター試験のような形式だったので、個人的には前期よりも負担が少なく、試験前に復習を何度もして、無事合格することが出来ました。復習を通して接続法への理解が以前よりも深まりました。

次に、*Las mujeres y la literatura* は、留学する前から履修したいと考えていた自分の興味ある授業だったので履修しました。ただ、文学に関する授業はかなり難しく、留学生向けではないと分かっていたので、かなり不安でした。実際、授業内容はかなり難しく、先生のパワーポイントの内容をノートに取るので精一杯で、授業に付いていくのはとても大変でした。この授業は、国際的に活躍してきた女性作家、スペイン文学における女性の登場人物の特徴、スペインの女性作家の3つのテーマに分けて、中世から20世紀の歴史をたどって学んでいく形で、それぞれのテーマごとの中間試験、2つのレポート課題、最終試験によって成績が決まります。この試験や課題のために、かなりの文学作品を読むことが必要で、それに関してすべて記述で書かなければいけませんでした。サラマンカ大学では、すべての試験で2度のチャンスがあり、この授業は1次試験で合格できなかったのですが、2次試験で合格できて、無事単位を取ることが出来ました。この授業を履修したことは、個人的に留学生活において一番達成感を感じ、挑戦して本当に良かったと思っていることなので、今後留学する方も、ぜひ自分の興味のある授業を積極的に挑戦してみたいです。

Literatura Contemporánea Japonesa は、内容的にも興味はありましたが、それよりも前期に履修した翻訳の授業と同じ先生の授業であること、スペイン人の友達も多く履修することが履修の決め手でした。履修を決める段階で、ELEと*Las mujeres y la literatura*の授業が負担の大きい科目だと感じていたので、出来るだけ取り組みやすい内容で、かつスペイン人と話せる機会が多いこの授業を選んだことで、バランスよく履修を組むことが出来たと思います。この授業ではプレゼンがあり、グループワークを通してスペイン人と一緒に準備を行い、本番ではスペイン語で話す必要がありました。とても緊張しましたが、原稿を見ないで話せるように何度も練習しました。終わった後は友達も褒めてくれて、とても達成感を感じました。また、プレゼン、試験のために、吉本ばなな、川端康成の作品を読めたこともこの授業の良かった点のひとつです。帰国したら他の日本文学作品も読みたいと思いました。

後期では、聴講の授業も含め、前期よりもより語学学習を越えた自分の興味に基づく学びが出来ました。留学先でしか学べないことを学べたので、とても満足しています。

また、履修に関してですが、サラマンカ大学では、基本的に他学部の科目も履修できるのですが、法学部だけは法学部の学生しか履修できないようです。そのため、私は法学部の講義を聴講という形で受けることになりました。学部によって規則は異なり、私が所属していた文献学部の学生は科目の半分以上を文献学部の科目にしないと他学部の科目は履修できません。これからサラマンカ大学で学ぶ予定の方は、ぜひ学部を選ぶ際にいろいろな学部を調べてみてく

ださい。

2. 生活の状況

3月から5月にかけて、サラマンカは湿気がなく、気持ち良い気温が続き、大学の近くや庭園には春の花がたくさん植えられて、トルメス川の周りも緑で一杯になりました。個人的には10か月スペインに滞在した中で一番好きな時期で、たくさんピクニックをしました。ただ、6月にはかなり暑くなってきて、すでに30度以上の日が続いています。湿気はありませんが、夜9時、10時まで日が落ちず、昼のような暑さが続くので、4、5月が恋しいです。コルドバ出身の友達の話によると、7、8月には、コルドバは4、50度にまで達するので、まだ本格的な夏ではないそうです。7、8月のスペインを経験できないのは残念ですが、今よりも暑くなると思うと、経験しなくて良かったかもしれません。

生活面に関して、後期には、ルームメイトが1人変わり、またたくさんの授業に参加していたので、新しい友達もできました。法学部の英語の授業を受けていたこともあって、スペイン人の友達だけでなく、エラスムスの友達ともよく遊ぶようになり、英語、スペイン語、日本語をバランスよく日常的に話す理想の環境が出来て、後期は特に充実していました。1年の留学と聞くと、これから留学に行く方は友達作りに不安な方もいると思いますが、10か月の間に新しい出会いがたくさんあります。1年の留学を有意義に使い、後期になりある程度生活に慣れたと感じても、ぜひ新しい環境に積極的にチャレンジして行ってほしいです。

また、3月末の日本週間のお手伝いや、外国人に日本語がどう聞こえるかという研究のお手伝いなど日本人としてのヘルパーも続けていました。サラマンカは、日本語を学べる場所が多く、日本に関する図書館もあるので、このようなお手伝いの機会が多く、これらの経験を通して日本語や日本文化に改めて興味がわきました。

留学生活を振り返ってみると、この10か月を通して、さまざまな文化、価値観、考えに触れて、自分自身の価値観の幅もかなり広がったように思います。国際交流を通して、お互いがお互いを影響しあえる関係性をつくれたことは、留学をしてよかった理由の一つです。新しい出会いとは、スペイン人やエラスムスの友達に限らず、別の大学の日本人にも当てはまります。サラマンカで出会った日本人の友達とは、留学生活において、助け合い、刺激しあうことが出来ました。

また、新しい環境に身を置くことで、日本にいる家族や友達への感謝の気持ちや、大切さも改めて感じる事が出来ました。特に、学生のうちにこのような特別な経験が出来たのは、家族のおかげなので、本当に感謝しています。日本に帰国した後も、スペインで経験したこと、感じたことを忘れず、1日1日を大切に過ごしたいと思います。